				 7 100
	項目	わかることば(手話○・日本語●)をチェックする *他にわかることばは《 》に書いて下さい	だいたい わかる	 わからな い
1	50音(100音)の配列がわかる	50音清音のア行から順番に言える。ア列から順番に横 に言える。濁音・半濁音・拗音が順番に言える		
2	文字⇔指文字の変換ができる (100音)	清音、長音、濁音(ばびぶ・・)、半濁音(ぱぴぷ・・)、拗音(ぴゃぴゅぴょ・・)		
3	色や形のことばがわかる	赤、青、黄、緑、水色、黒、白《 》 丸、三角、四角《 》		
4	比較・反対のことばがわかる	比べる、どちらが、〜より、大小、長短、明暗、高低、多 少、新古、硬柔《 》		
5	上位概念のことばがわかり、 仲間分けができる	動物、魚、鳥、野菜、果物、乗物、虫、食べ物、飲物、お 菓子《 》		
6	動作のことば(動詞)がわかる	起きる、着替える、洗う、食べる、飲む、行く、帰る、入る、出る、見るなど生活動作語《》		
7	身体の名称がわかる	頭、目、耳、鼻、口、舌、首、手、ひじ、足、お腹、膝、親 指、人差指、爪《 》		
8	気持のことばがわかる	嬉しい、悲しい、楽しい、つまらない、悔しい、淋しい、うらやましい、困る、驚く、飽きる《 》		
9	挨拶のことばがわかる	おはよう、こんにちは、こんばんは、おやすみ、ただいま、お帰りなさい、さようなら、ごめんなさい、ありがとう、お願いします《 》		
10	疑問詞(5W1H)がわかる	いつ、だれ、どこ、なに、どうする、どうして(なぜ) 《 》		
	数量のことばがわかる	いくつ、多い・少ない、合わせる、分ける、増える、減る、 取る、残り 《 》		
12	原因結果、比喩、仮定のことば がわかる	〜だから、どうして、そのわけは、〜みたい、例えば、も し〜なら・・《 》		

^{*}上記「わかることば」は例であり必須という意味ではありません。該当のことばは他にいくつもありますのでご承知おき下さい。

◎子どもへの対応チェックリスト(大人用)

NO	子どもへの対応	ほぼでき ている	少しでき ている	できて いない
1	正しい文で話し、問いかけるようにしている。【例】×「行くよ!」→〇「学校に行くよ」 子ども「みず!」→親「水が飲みたいの?水をちょうだいだね」と拡充模倣する。			
2	子どもの興味に合わせて毎日、絵本を読んでやり、内容について話し合ったり、いろんな話をする時間をとるようにしている。【例】絵本を読んで再現あそびをする。どんな話か、子どもに話してもらう。ヒント「はじめに、次に、それから、最後に」			
3	絵日記を書いたり、ことば絵じてんを作ったりしながら、経験したことを話し合い、 文や絵・写真などでまとめるようにしている。			
4	いつもメモ帳を持ち歩き、機会をとらえて文字や絵にかいてみせるようにしている。			
5	会話する時、手話だけで終わりにしないで、日本語の習得に結びつけるよう意識している。 【例】大事なことばは指文字で繰り返したり、文字に書く			
6	おやつなどの時、数に関することばを意識して使うようにしている。【例】「あわせる・ もらうと全部で」「とる、あげると~つ残る」「~つずつ配る」「どちらが・~より多い・少ない」			
7	簡単な言葉遊びをして言葉に関心を持たせるようにしている。【例】「この部屋にある 赤いもの探そう」「『あ』のつくことばなあに?」「反対ことばは?」「虫の名前5つ言ってね」			
8	子どものことばや行動を共感的に受け止め、受け入れるようにしている。【例】「~したかったんだね」「自分で考えたんだ。すごいね」「できるようになるから大丈夫だよ」			
9	禁止や命令ではなく、「~したら」と提案の形で対案を述べ、子ども自身に考える余 地を残すようにしている。【例】「ママはこう思うけどあなたはどうしたいと思う?」			
10	他児と比べず、子どもが前より進歩したときに承認し、ほめるようにしている。【例】 「できるようになったね。すごいね!」「前は難しかったけどやったね!」		-	